

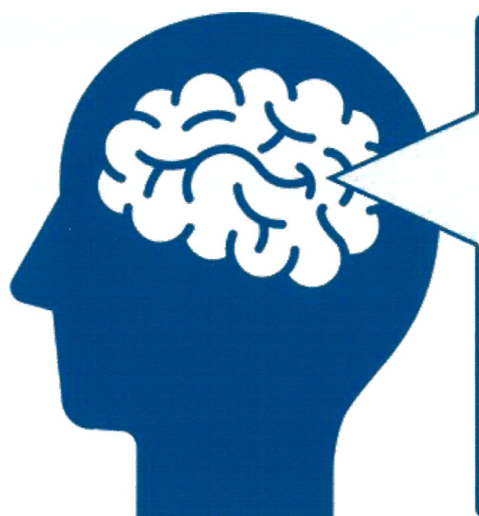
認知症を予防するための第一歩

ApoE遺伝子検査

現在、認知症患者は急増しており、厚生労働省の試算では現在国内では500万人以上の認知症患者がいるとされ、将来的には65歳以上の方の5人に1人が認知症になるとも試算されています。また現状、認知症に関しては抜本的な治療法が確立されておらず、予防やリスク管理が重要とされております。

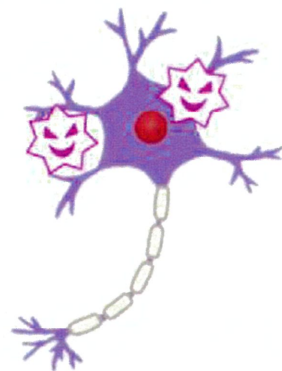
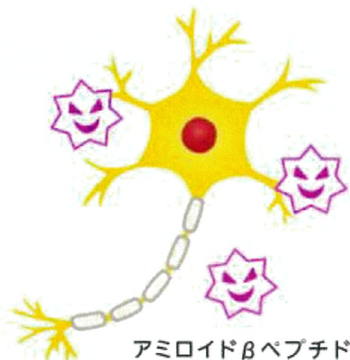
◆ 認知症の予防対策。いつからすべきか？

認知症にはいくつか種類がありますが、日本ではその半数以上をアルツハイマー型認知症が占められています。アルツハイマー型認知症はアミロイドβと呼ばれる老廃物が脳内に蓄積することが原因とされ、実際に発症する20年以上前から蓄積し始めることが明らかになっています。そのため、発症する前から認知症の予防を視野にいれて生活習慣の見直しなどを意識していく必要があるのです。



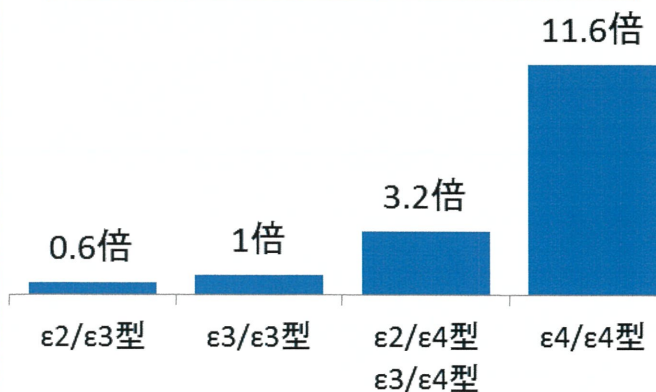
脳の神経細胞に
アミロイドβペプチドが蓄積

神経細胞が障害を受け、
脳の伝達機能が失われる



◆ ApoE遺伝子とアルツハイマー型認知症

ApoE遺伝子のタイプ別
アルツハイマー型認知症発症リスク
(日本人に多いε3/ε3型を1としたときの倍率)



※Hsiung, G.Y. et al, Alzheimers Dement. 2007 Oct;3(4):418-27. より引用改変

ApoE遺伝子検査ではアルツハイマー型認知症の発症と密接な関わりがあるとされているApoE遺伝子を調べます。

ApoE遺伝子には6組の遺伝子タイプが存在し、特定の遺伝子タイプε4を持っている方ではアルツハイマー型認知症の発症リスクが3倍～12倍高くなるといわれています。

もちろんε4タイプを持っているからといって必ずしも認知症を発症するわけではありませんが、遺伝的な認知症リスクを知ることで予防につなげていただくことができます。

*土曜午後、日祝休診